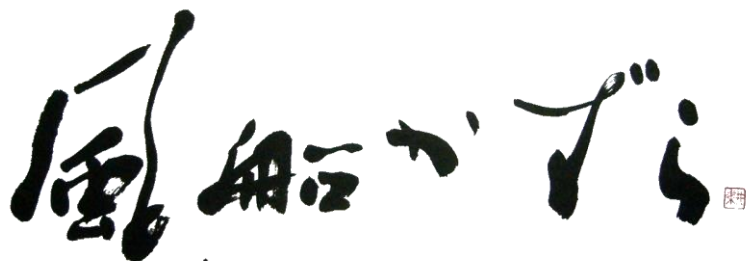


## 放送大学浜松同窓会



第11号

発行：放送大学浜松同窓会

編集：浜松事務局

発行責任者：鈴木敏美

発行：平成31年3月31日

題字は松下安延氏（雅号耕山）

seeds of heart

放送大学同窓会連合会 <http://rengokai.ouj-dosokai.net/>放送大学浜松同窓会 <http://hdosokai.web.fc2.com/>浜松サテライトスペース <http://1hamaouj.web.fc2.com/>

## 「自分の人生を自分の足でしっかり歩んでほしい」

浜松サテライトスペース代表 白柳隆康

この言葉を教職時代に卒業していく生徒に贈った言葉です。

卒業式の何ヶ月前にあるご高齢の方とお話をさせていただいた時にその方は「年をとった今でも毎日が楽しい」と本当に嬉しそうに、自慢げに話してくれました。「高齢になった今でも、生き甲斐を持って充実した生活が送れているのは、今まで、その時その時を大切にしてきたからだと思います」と言っておられました。

その方は、常に自分自身が、今できることを精一杯行い、成就感、成功感が持てた体験をたくさんしてきたからこそ「充実した、楽しい生活、人生」が送れていると言えるのだと思います。

しかし、その方の生きてきた道のりは、決して楽しいことばかりではなかったと思います。苦しかったこと、悲しかったことのほうが多かったかもしれません。

「悩んだり、どうしようか迷ったり、投げ出したくなったり、したことに逃げないで前向きに立ち向かったことが、その方を強くしたのではないのでしょうか。常に前向きに立ち向かい、逃げることなく自分自身の力で乗り越える努力をしてほしい。」

と生徒に話したことを思い出します。

放送大学の学生さんたち、これからも向上心と意欲を持って学習に取り組み充実した楽しい人生を送ってください。そして、いつか誰かに、そのすばらしい体験談をお話ししてあげてください。

## 学生募集

放送大学では、夢を実現させるべく入学される方々を心から歓迎しています。

放送大学総合受付 ☎ 043-276-5111

FAX 情報サービス ☎ 043-211-8351

放送大学ホームページ <http://www.ouj.ac.jp/>

# 北陸・東海地区同窓会交流会に向けて

浜松同窓会会長 鈴木敏美

放送大学浜松同窓会会長をお引き受けして早くも2年が過ぎようとしています。その間、本当に多くの皆様にお世話になりました。静岡学習センター所長や職員の皆様、浜松サテライトスペースの皆様、そして同窓会の皆様。力不足の私なのに何とかやってこれたのも、その方たちのご協力があったことです。感謝とともに、その中にいることにとっても幸せを感じています。暖かくて、居心地がよく、人間のつながりのありがたさを実感しています。

自分たちが卒業を迎えるにあたっては、それぞれ大変な苦勞をしてきました。通信教育の特徴としての孤独感、相談のする場所がわからないなどもその一つだったと思います。そこで、同窓会の一番の目標を「在校生支援」とし、この苦勞を少しでも解消できればと考えています。幸いにも同窓会役員は再入学者が多く、卒業生としての自分の経験と在校生としての現状の両方を考えることができます。また、現在の学燈会会長は同窓会員でもあることから同窓会役員にも含める事により、学燈会の行事も併せて同窓会役員会で検討することとしました。浜松同窓会会則に「本会は、会員の親睦と情報の交換及び相互研鑽を図り、併せて放送大学の発展に寄与し、放送大学同窓会連合会との意志の疎通を図ることを目的とする。」とうたわれています。「在校生支援」の活動を通してこの目的が達成できると思っています。小さな事からぼつぼつ実行していきたいと考えています。

放送大学同窓会の組織に「北陸・東海地区(富山・石川・福井・岐阜・三重・愛知・静岡・浜松)同窓会交流会」というものがあります。2018年3月17、18日岐阜で行われた第4回交流会に初めて参加した折、「第6回は浜松で開催してほしい」と言われました。浜松は静岡の下部組織と考えていましたので、びっくりしましたが、ホテルで1晩考えて、引き受けることにしました。会長をやり出してほぼ1年、同窓会の組織が丸く固まり出し、その中心になんとか自分が置いてもらえていることを肌で感じるようになっていましたから、やるなら今しかないと思ったのです。この交流会に同行していた副会長、事務局長に相談したところ、2人とも同感で、則、賛成してくれました。もちろん、「役員会に諮って」という条件を付けて、返事をしてきました。

2018年度に入って、同窓会役員会の了解を得て、本来なら2019年度は役員改選の年になるのですが、もう1年全員任期延長で当たり、さらに10人の役員に加え5人の増員で準備会を立ち上げました。

第6回北陸・東海地区同窓会交流会の大筋は以下の通りです。

- ・日時 2019年10月26日(土)11時開会、日帰り
- ・場所 クリエイト浜松53会議室
- ・内容 午前・各同窓会の活動報告と交流(役員のみ)  
午後・本多隆成先生公開講座・楽器博物館見学・懇親会(どなたでも参加可)

細かなことは2019年度に検討いたします。浜松らしい暖かな交流会になるようにしたいと思っていますので、同窓会員の皆様のご参加とご協力をぜひお願いいたします。



# 【七〇歳からのバドミントン】

小林正孝

退職以来、七年間継続していた【ソフトテニス】ですが、ビジター参加していたクラブの練習日（月）が、『さくら・クラブ』という【バドミントン】に変更になりました。それならばと、ラケットを借用して面白半分には体験入会をし、仲間に入れていただきましたが、上手くシャトルを打てません。いわゆる《羽根つきスタイル》とはグリップから全く違い、本格的にプレーするには基礎から学ぶ必要があると痛感しました。丁度、市が主催する『バドミントン教室』があり、初心者コースに参加しましたが、約四〇名の内、最年少者が中学二年生で、最高齢者は私の七〇歳という年齢構成でした。

それこそ、床のシャトルをラケットで拾い上げる遊びから始まり、前記のラケットの握り方の練習ですが、テニスの経験がある方はお分かりの通り、【硬式テニス】と同じ、イースタン・グリップです。しかし【ソフトテニス】のウェスタン・グリップに慣れていたこともあり、どうしても馴染めませんでした。一応、計十六回のコースを終了して、冒頭の『さくら・クラブ』に正式に入会し、毎週一回練習試合を行っていました。しかし、コーチもいない為、上手な人を参考にしながらの見様見真似です。いわゆる我流での練習を続けながら、【ソフトテニス】との両方は無理と思い、【バドミントン】への転向を決意致しました。

一年後、現在加入している《マーガレット・クラブ》の存在を知りましたが、何より当クラブの特徴は専属のコーチがいて、個人のレベルに合わせて指導して下さることで、自分にピッタリと納得して、即入会しました。

何せストロークの種類でも、基本の『ハイクリア』から始まり、『ドロップ』『カット』『ロブ』『ドライブ』『プッシュ』『スマッシュ』『ヘアピン』更に『サービス』などがあり、そのほとんどにフォアとバックハンドがあるので、実に複雑です。

ダブルスで使用するコートは、縦十三．四m、横六．一mの統一基準ですが、その半分のスペースをパートナーと分担して攻守を行います。その為、フォーメーションとして攻撃型の『トップアンドバック（前後）』や、守備型の『サイドバイサイド（平行）』があり、それが試合中に入れ替わりますから、独特の俊敏なフットワークも大切です。

現在は近くの体育館で、平均して週三日（午前中）、練習と試合を行っていますが、なかなか思うようにはいかず、まだまだ初級者レベルです。コーチからは《ひとつずつで良いから、課題を克服するように》と言われていきますので、自分の弱点を都度宿題としているのですが、覚えたつもりがまた逆戻りして、復習を繰り返すことの連続です。

始めて二年半、七十二歳の自分があとどのくらいプレーできるのか分かりませんが、怪我をしないように、日課のストレッチやTV体操、更にウォーキングなどで、十分な事前運動をして、練習や試合に臨んでいます。

気の合った同好の仲間とのふれあいは楽しく、今後ともそのご縁を大切に、これからも【バドミントン】と付き合っていきます。何より自分の《健康寿命》延伸の為、できるだけ長く継続したいと思っているこの頃です。

以上

新城市の教育委員会が取り組んでいる「共育」（ともいく）に関して開催されているコンテスト「共育川柳」に向けて創作されました。

## 川柳

平野 忠

見守るよ バトンの中身は 幸せ色  
何気ない あいさつニッコリ 笑顔色  
次の駅 希望と未来へ 三世代  
一人じゃない 山の湊は 家族愛  
通学路 元気が未来の あいさつの森  
気にかける 言葉をかけて 挨拶かわす  
ルーティーン 挨拶元気に ニューキャッスル  
五平餅 母の味だよ 温もりが  
世代間 挨拶交わして 通学路  
安全の 一步を踏み出す 挨拶交わす  
道の森 交通安全 共に愛  
お巡りさん 地域を守って 治安よし  
次世代の 想いを繋ぐ とも育の杜  
空高く 元気に挨拶 三河愛



## 「防災クラブやらまいか」発足にあたって

伊尾喜 禎則

4月より放送大学のクラブ活動の一環として「防災クラブやらまいか」を立ち上げます。

昨今の自然災害の多発により防災への関心は一段と高まっておりますが、いざ対策と考えると、個人のレベルでは何をすればいいのか考えるだけで具体的な対策がなされていないのが現実ではないでしょうか。

防災の世界では「自助・共助・公助」が大切とよく言われておりますが、実はこの割合は7：2：1だと言われております。国と地方自治体のサポートの割合は1で残りの共助と自助の9割りを我々がまかなうことになります。

防災の9割はをご自分でといわれても具体的に何をどうすればいいのか困ってしまいます。この問題を解決するために「防災クラブやらまいか」では、学習会、防災センターや各種セミナーなどにより、この9割の自助、共助の中身を充実させるように活動していきます。

同窓会のみなさんも是非このクラブに参加していただき、身近な防災の取り組みに参加いたしませんか。

また、皆さんの放送大学で学んだスキルを家族と自治会の防災などのために役立ててみませんか。

皆さんの参加をお待ちしております。

## 地震の記憶と防災意識

河合 京子

阪神淡路大震災から24年

平成31年1月17日

5時46分、まだ布団の中にいた。ひどく揺れていた。起きるのは危ないかも…ぐずぐずしていると、「おい、子供を見てやれ！」夫の叫び声に、慌てて娘の部屋のふすまを開ける。

高校二年生の娘は、すでに勉強机の下にもぐっていた。静岡県に住んでいた時の防災訓練が、役に立っているなと一安心。高校一年生の息子はまだ布団にくるまっている。

平成7年1月17日の阪神・淡路大震災だった。

そのとき私たち家族は、神戸から120kmの滋賀県能登川町（現東近江市）に住んでいた。

「びっくりしたね、長いこと揺れたね」私が言うと、

「お母さん、僕らは大丈夫だから、自分の安全を一番に考えた方がいいよ」と、息子に言われた。それもそうだなと思う。

地震が起こるたびに思い出すことがある。

「皆さんは、日本一高い富士山と、世界一深い駿河湾の間に住んでいます。だから世界一危ない所です。いつ地面が滑り落ちてもおかしくないですよ」高校で、地理の先生に脅かされたことが頭にこびりついている。ちなみに大規模の湾を英語で「ガルフ（海湾）」と言い、日本にはない。「ベイ」と呼ばれる規模の湾では駿河湾が世界一深く、水深2,500mだ。日本で二番目が相模湾2000m、三番目が、富山湾の1500mである。いかに深いかかわかるだろう。

静岡県に住んでいるときは、防災訓練や家具を固定するなどは当たり前だった。それが滋賀では家具を固定している人は滅多におらず、固定用の金具なども売っていなかった。

「ここは地震がおこらないから大丈夫」と言う職場の友人に

「そのうち琵琶湖が噴火して山になるかもしれないよ。だってエベレストも昔は海だったというからね」と、変な冗談を言ったこともあった。

阪神・淡路大震災では、痛ましい焼死もあったが、家具の下敷きと家屋倒壊による圧死が、犠牲者全体6,343人のうち七割に上る。固定してあれば、死者はずいぶん減っていたはずだ。残念だ。

『災害の日本史』によると、『日本書紀』から地震の記録が書かれている。684年の白鳳地震の記述には山の崩壊・河川の氾濫、民家・神社仏閣などが破壊されたとある。神頼みをしてダメなのだ。

東日本大震災で、千年前の地震として注目された貞観地震は、869年に起こっている。2007年に考古学的調査が行われ、9m程度の津波が、繰り返されていることが分かっていた。

災害の歴史を謙虚に学べば、これからも起こるし人間の力ではどうすることもできないと知る。自分が生きている間は大丈夫などと、都合よく解釈してはならない。

私の記憶にもある昭和39年の新潟地震は、マグニチュード7.5だった。その後東日本大震災までの約50年間にM7以上の地震は17回起こっている。およそ3年毎である。驚くべき頻度ではないか。小さな地震は数え切れない。

「地震がいつ起こってもおかしくない」先生の言った言葉は、私の防災意識の根っこにある。寝ているとき、ご飯を食べているとき、歩いているときなどふと考える。

「今地震が来たら、まず火の元か、ドアを開けようか。それともどこに身を寄せたらいいか……」深刻にはないが、ちょっと考えるだけでもいざというときに行動の手助けになるかもしれない。毎日がプチ防災訓練だ。

## 日本の国旗「日の丸」

小倉 康弘

日の丸が使われたのは意外と古い。まず源平時代に軍扇に使っている。源義家が前九年の役(1051年)や後三年の役(1083)の時に使った軍扇の表裏には日と月を描いてあり、源義経の用いた物も同じ物だ。

源平盛衰期にも屋島の合戦で紅の扇に日の丸を描いたものを那須与市がうったという話が出ているし、熊谷直実が平敦盛を呼ぶのに日の丸の軍扇を使ったのも著名な話である。

現存最古の「日の丸」としては、山梨県甲州市の裂石山雲峰寺所蔵のものが知られている。これは天喜4年(1056)に後冷泉天皇より源義経へ下賜されたという伝承があり、「御旗」(みはた)と呼ばれて、頼義三男の新羅三郎義光から、義光の系譜に連なる甲斐源氏宗家の甲斐武田家に代々伝えられて家宝とされてきた。武田氏をはじめ、上杉謙信、徳川家康、伊達政宗も日の丸の旗を使用したことがあるというし、朱印船も日の丸を使っている。

18世紀から19世紀にかけてロシアの南下政策を警戒した幕府が蝦夷地天領化・北方警備などのために派遣した御用船(商船・軍船・似閑船など)も日の丸を印した旗や帆を使用していたこともある。

嘉永6年(1853年)11月、島津斉彬は15隻の軍艦の建造を申請したとき「異船に不相紛為、白帆毎に朱にて日の丸相印小旗、吹貫等に使用致度」と提案している。

しかし、幕府は「帆印等は、御国之惣印取扱い、追て可被仰出候間、可被得其意候」と保留している。

翌年1月、江戸に出府した島津斉彬はまたこの日章旗の事を持ち出した。ところが、評定所でもこれを否決したので阿部伊勢守らはこのことを水戸斉昭に打診してみた。ところが斉昭は、日章旗を総印にすることに賛成したので、ついに決定したのである。

安政元年(1854年)7月9日、幕府は命令して、艦船の旗章を定めている。このときも、幕府の役人たちは、幕府の船には日の丸を用いて、他の諸藩はそれぞれの藩旗を使うように提案したのである。

理由として、日の丸は色がさめやすく海上では赤は遠望がきかないので、見分けやすいように白地に中黒がいいというのだ。それでも困るなら黒一文字はどうだろうといている。しかし斉昭は絶対にあとに引かなかった。幕府の役人としてはまだ日本というイメージがなかったので、どうしても幕府の使う船印にこだわったようだ。斉昭はすでに外国に対して日本のため・・ということを考えていたようだ。

島津家で日の丸の旗を作ったのは安政元年5月のことである。斉彬は肥後七左衛門に制作させた。

肥後は斉彬の書いた日の丸をもとにしてまず白木綿に朱で書いた。絵師に紅と朱で四、五の試作品をこしらえさせて斉彬に見せたのである。そのあと、この旗を水戸斉昭に見せたところ、しごく満足したということだった。

なおこの日の丸の雛形は筒井、川路、江川、下曾根など幕府の能吏にも見せたが彼らは同意している。

この日の丸の旗についてこんな余談がある。老中阿部正弘の話であるが、阿部家の紋は丸に鷹の羽を交差したものだが、換え紋は石持ちで黒丸であった。色は違うが赤丸にすると日の丸そっくり同じだ。

そこで正弘は日の丸を国の総印にすることを簡単にうちあげたら「自分の家の紋章を国の紋章にしたと言われるかも知れない。それは困る」と思って躊躇したのだと家臣に語ったことがある。

1854年(嘉永7年・安政元年)3月の米和親条約調印後、外国船と区別するための標識が必要となり、日本国共通の船舶旗(「日本惣船印」)を制定する必要が生じていたのである。

この日の丸は維新後の明治3年(1870年)1月27日太政官布告7号で国旗に規定された。以後、日の丸は国旗として扱われるようになったが、「国旗」としての法的な裏付けは太政官布告のままであり法令として存在しなかった。

### 国旗国歌法の成立

平成初期から学校の入学式卒業式における日の丸掲揚に係わる問題が頻発、掲揚に反発する日本教職員組合・全日本教職員組合所属教職員のトラブルから高校校長に自殺者が出るに至った。背景には教育現場における日の丸掲揚と君が代斉唱に対する反対運動があった。このことに対処するため、平成11

年（1999年）には国旗及び国歌に関する法律（国旗国家法）が公布され、正式に国旗として定められた。

参考文献【幕末の日本・金子治司著：早川書房】その他の資料

# 卒業研究を終えて

静岡学習センター浜松サテライト全科履修生 中山礼行

2018年度は、放送大学に入学して初めての卒業研究に「社会と産業コース」で挑戦しました。指導教員は静岡大学名誉教授、放送大学浜松サテライト客員教授、西原純先生にお願いしました。

テーマは「榛村純一の静岡県掛川市政 28年間の評価の試み」で、自分自身が市役所現役時代に関係した生涯学習運動や新幹線掛川駅設置を中心とした当時の市政の評価です。

榛村元市長は「生涯学習社会は達成されたのか、実現できたのか、尺度がないから難しい」と、いつも口癖のように呟いていたので、そのことを研究したいと先生にご相談すると、先生は「市長の側近として仕えた中山さんは、ある意味で一番客観性に乏しい人間であるから、結果が良くても悪くても受け入れなくてはいけない」と仰せました。しかし、「意義のあるテーマだからやりましょう」と快く引き受けて頂きました。それが2017年8月のことになります。

私は卒業研究そのものの事態、全く様子がわかりませんでした。先生のご指示通り進めていきました。最初は、関連する先行研究のまとめをパワーポイントで提出しました。10月からは、本格的にインタビュー調査の実施、文献、新聞等によるドキュメント調査やアンケート調査を進めていくことになりました。

インタビュー調査は資料が膨大になったのでエクセルへ落とし込んで分析を開始して、全ての分析が終了したのは翌年の5月頃でしょうか。今思うと早めに進めてきたことが幸いしました。それは、夏の時期に国・県・市の統計資料の集計に意外と時間がかかり、図書館や関係機関へ足繁く通うことになり、一番暑さが身に応え苦しかった頃で今でも忘れません。

さて、自分には、研究計画書どおり進んでいるのか皆目見当が付きませんでした。先生が「思いついた事は文章にして何でもいいから書いてみなさい」とのことでしたので、毎日のようにPCに打ち込んで相談日に提出しました。

するとどうでしょう。先生が適切に丁寧にコメント付きで指導して頂けるので、知らぬ間に計画書になっていくのです。魔法の小槌のようでした。そして2018年10月、夢に見た卒業研究書が完成したのです。

お陰をもちまして、成績評価も最高点をいただくことができました。

また、先生からは、論文の出版のお話もいただき、夢のようなことです。高校卒業から早50年余、今年70歳の古稀を迎え、家族に支えられ成し遂げた大学卒業と卒業研究です。

今後も、放送大学入学当時の所信を忘れず、たゆまぬ努力と志を持ち続け、現役大学生として生涯学習人生を精進していく所存です。

## 編集後記

江戸時代から親しまれ続けている「川柳」が加わりました。  
皆様も川柳の奥深さを学んで素敵な川柳を詠んでみてください。  
浜松同窓会は2008年に発足し、すでに12年目を迎えました。そこで、  
2020年度に、今までの同窓会を振り返る記念文集を発行することになりました。多くの皆様の寄稿をお待ちしています。（仲塚記）